



**Home
Medical
Assistant
Team**

間接災害支援チーム

令和6年能登半島地震 HoMAT出動実績報告

●出勤人数：延べ19名

・医師：14名、看護師：2名、保育士1名、児童支援員2名

●活動期間：延べ59日

〈オレンジホームケアクリニック〉

	開始日	終了日	日数
1	1月9日	1月13日	4
2	1月15日	1月19日	4
3	1月16日	1月18日	2
4	1月19日	1月20日	1
5	1月21日	1月24日	3
6	1月28日	2月2日	5
7	2月3日	2月7日	4
8	2月6日	2月9日	3
9	2月11日	2月17日	6
10	2月18日	2月21日	3
11	2月21日	2月24日	3
		のべ	38

〈オレンジホームケアクリニック〉

1	1月22日	1月24日	2
---	-------	-------	---

〈かがやきクリニック〉

1	1月8日	1月11日	3
---	------	-------	---

〈キッズケアラボ〉

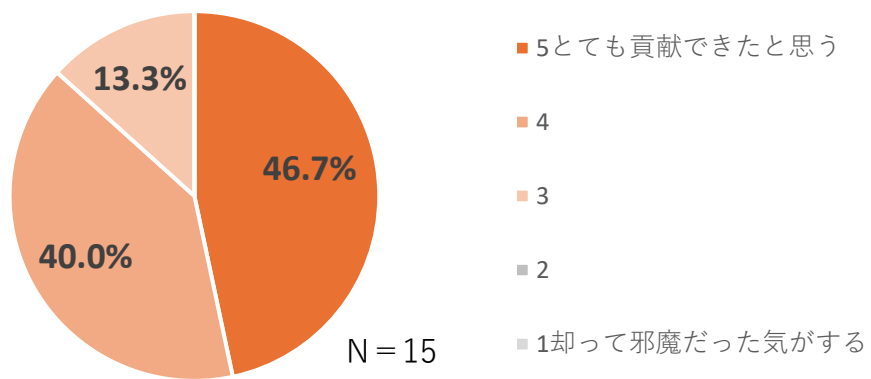
1	1月30日	2月1日	2
2	1月21日	1月22日	1
3	1月28日	2月3日	6
4	1月30日	2月1日	2
5	2月5日	2月9日	4
6	2月8日	2月9日	1
		のべ	16

●間接災害支援場所、主な支援内容

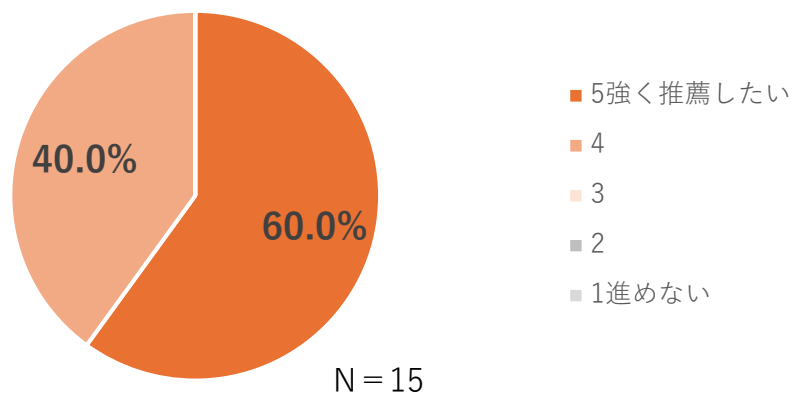
オレンジホームケアクリニック	・訪問診療および往診、日曜日・夜間の待機・往診
勝山オレンジクリニック	・定期の訪問診療、日曜日・夜間の待機・往診 ・学生(医学部医学科6年)への指導
つながるクリニック（外来）	・内科外来（成人、小児） ・10ヶ月健診、予防接種
キッズケアラボ	・重症児デイサービスでの診察・療育・ケア
勝山福祉避難所	・福祉避難所利用者の診療
クレヨン在宅クリニック（富山）	
かがやきクリニック（金沢）	・訪問診療および往診、日曜日・夜間の待機・往診

● アンケート結果

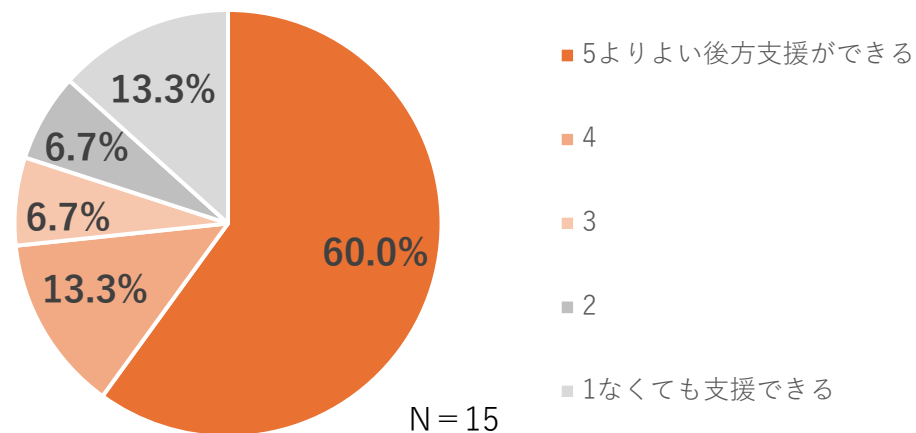
後方支援として貢献できたと思う



友人に後方支援に行くことを推薦したい



事前に支援先との関係性があった方が、
よりよい後方支援ができる



●間接支援として、上手くいったこと

診療スタイルや 重視点の学習機会

他のクリニックがどのようなポイントを重視して訪問診療を行っているかを学び、自分の診療を振りかえる機会となった。

診療スタイルの違いを経験し、診療の質を担保する方法についてのヒントを得た。

訪問看護師や薬剤師との連携、物品管理などの業務分担の内容を確認した。

支援先スタッフとの 良好な関係構築

支援先の医療機関のスタッフと良い雰囲気の仕事ができ、コミュニケーションの重要性を再認識した。

スタッフ同士の連携が強化され、フィードバックをもらった。

与えられた仕事の 遂行

夜間往診や訪問診療時の状態悪化した患者への対応も問題なく行えた。

最低限の代診機能を果たし、具体的な役立ちも確認できた。

精神的なバックアップ の提供

実際に診る患者数は少なかったが、精神的なバックアップを提供することで支援した。

普段の診療で慣れている医療的ケア児の訪問診療も行い、貢献できたと感じた。

●間接支援として、問題だと思ったこと

1. 支援の役割や業務分担の明確化不足

- ・自分の役割や目的が明確でなかったため、どう動けばよいか分からない時があった。
- ・診療調整などを行う受援側のスタッフの負担が大きくなっているか心配になった。

2. 事前説明と情報共有の不足

- ・仕事内容やカルテ記載の内容について、事前に十分な説明がなかったため、過不足が生じることがあった。
- ・現場でのタスクシェア方法について事前にわかっていたら、スムーズに進んだかもしれない。
- ・小児外来や検診など、対応できるかどうか事前に確認が不足していたため、対応に不安を感じた。

3. 支援の質と責任の不安

- ・初めて会う患者の人生の重要なポイントに出くわすこともあり、その際の診療の質や責任について不安を感じた。
- ・支援先のスタッフや患者に対して、本当に役に立っているのか、十分な支援ができているか不安に感じた。

●今後、間接支援の際に気をつけた方がいいこと

1. 診療スタイルの違いと事前確認

- ・**診療スタイルの違い:** クリニックによって診療スタイルや処置内容が異なるため、事前に診療スタイルや準備物を確認することが重要。診療同行者と確認しながら対応することが推奨される。
- ・**仕事量と代理ポジションの把握:** どの程度の仕事量があるかを予め確認し、担当する医師や代理ポジションを決定することが求められる。

2. 支援者の体力とストレス管理

- ・**支援者の体力とストレス管理:** 支援者の技量や体力を考慮し、期間や勤務形態の調整が必要。体力に自信がない場合は2泊3日程度のプランを推奨。

3. 受援側の準備と内部の対応の必要性

- ・**受援側の準備:** 自施設の受援力を強化するために、支援者専用の端末の準備や内部の人員調整の工夫が必要となることがわかった。
- ・**内部の対応:** 支援者への対応など、受援側にも緊張が続く。休息を確保し、体調管理をしっかり行うことが重要である。

●実際に出勤した医療者からの感想

〈医師〉



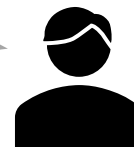
・別の地域で自施設と似通った機能の医療機関で「診療体験」できることは、とても勉強になりました。応援する側としては、**相手方の受援力に相当に助けられた印象**があります。この時期になって振り返ってみると、**応援する側には迅速性だけでなく持久力が必要だ**と感じました。

・職員の方も間接支援に慣れているのか、外来・訪問とわず、事前そして診療中のカルテ記載をしていただいております、こちらが追記する程度で済みました。新しいカルテでもストレスをかけずに済みました。むしろ、こちらがご迷惑をおかけしていれば忤度なく仰っていただければと思います。貴重な機会をありがとうございました。



・今回は雪も見られなかったのですが、雪には慣れていないので、**積雪が多かったらそれに対する心構えが必要だ**と思いました。事前に連絡を頂いていたので問題ありませんでした。

・お役に立てたかどうかはわかりませんが、**ただの見学よりも学ぶことが多く、参加できて良かったです**。
当院でも、**ピンチヒッターとしていらした医師に訪問診療業務をしてもらえるように、他のスタッフのトレーニングをしておく必要がある**と感じました。今回の震災支援が落ち着いたら、**ぜひもともと予定されていた「平時の診療支援」**をやれたらよいのかなと思います。ぜひ当院にもお越し頂けたらと思います。



〈児童支援員〉



・今回、自分自身も重症障害児者をサポートしている施設で働いているから、オレンジさんへ行っても余り戸惑うことなく療育へ関われたと思います。紅谷先生と弊社代表のつながりで互いに重度の方をサポートしている事業者同志で連携できて動きが速かったと思います。もし緊急時に「誰かのサポートがほしい」と思った時に、やはり日常同じように重度の障害のある方をサポートしている方たちが来て下さるのは心強くだろうな、と感じます。改めて横と横のつながりがやはり大事になるなと改めて思いました。